

第51回 厚生労働大臣杯争奪

全日本実業柔道団体对抗大会報告書

鳥取県立武道館開館記念

総合警備保障が初優勝 女子はコマツが連覇

厚生労働大臣杯争奪第51回全日本実業柔道団体对抗大会は、6月9～10日の両日、米子市の鳥取県立武道館で盛大に開催された。昨年まで5年間「ガンバレ神戸」大阪神淡路大震災復興祈念大会」として神戸市で開催してきた。今回は鳥取県立武道館の開館記念として地元鳥取県柔道連盟の絶大な支援により、米子市での開催となったが、全日本チャンピオン井上康生選手の出場などもあり、白熱したすばらしい盛り上がり大会となった。大会参加チームは男子91、女子16の計107チームであった。

開会式恒例の年間最優秀選手には、平成



開会式であいさつする松本 甫副会長

12年度永野重雄杯にシドニーオリンピック金メダリストの野村忠宏5段（ミキハウス）と瀧本誠4段（日本中央競馬会）の2人に、また宮崎輝杯に同じくシドニーオリンピック金メダリストの田村亮子4段（トヨタ自動車）の3人が、それぞれ初受賞となった。初日は男子第三部と女子第一部が行われた。男子は初出場ながら全日本級をそろえた了徳寺学園が無失点で決勝進出を果たし、本田技研熊本と激戦の末、3-2で初出場初優勝を飾った。

女子第一部は4チームのリーグ戦となり、

コマツが2年連続4度目の優勝を飾った。最終日も名勝負の連続で館内は沸きに沸いた。男子第一部はシドニーの100kg級金メダリストで全日本チャンピオン井上康生5段を擁する総合警備保障Aが、

伝統の新日鐵と旭化成を連破し、念願の初優勝を達成した。

井上とともに新社会人となった生田の貢献も大きかった。

同二部は平成管財が3-0で京葉ガスを破り、V2を決めた。

女子第二部の西日本警備保障



選手宣誓をする出口健三選手（新日本製鐵）



開会式

は初V。
なお、来年の第52回大会は会場を長野市に移して行われる。

男子 第一部

生田、小嶋で 総合警備が逆転勝ち

初めての決勝顔合わせ。2年ぶり8度目の復活を目指す名門旭化成に対し、過去3位入賞は1度あるが(44回千葉大会)決勝進出は未経験だった総合警備保障A。その旭化成からは絶対的なポイントゲッターであった篠原信一5段が名前を消している。退職し、母校天理大の教員となったためだ。



小嶋の内股見事に決まる

しかし、試合は始まってみないと分からない。先鋒戦、旭化成の下出が豪快無比の内股で上水を降し、先取点を奪った。このまま逃げ切れたらノと旭化成の応援席は思っただろう。次鋒戦が持ち手争いにこだわった。両者警告から、なお進展せず、双方反則負け。

中堅戦。井上―村元は4月の全日本に続き本年2度目の対決で、あの時は準決勝で攻めの遅い村元が消極注意を受けて不覚の黒星。今度はそうはさせじの意気込みで村元よく積極的に右大内刈りを飛ばして前へ出る。井上は落ち着いて左足を上げてフェイント、次は右と出る機をうかがう。息づまる熱戦ではあるが、互いにポイントとなる技を發揮できない。ラストは大内刈り、背負い投げの連続シーンも見せたが、このプラチナカードは引き分け。

この形勢が続けば下出の先取点が生きる。しかし副将戦では生田が開始42秒、高橋を内股に切つて落として1―1とタイスコアに持ち込む。場内、両陣営沸き立つところで本年の全日本三位入賞以来快調の小嶋が勢いに乗って、開始18秒内股で斎藤制剛を宙に舞わせて、歓喜の大逆転勝利を演じた。準決勝で総合警備に②―2の内容負けとなったのは、もう1つの名門新日鐵だ。ここではシドニー90kg級代表で、右ひじを負傷した吉田秀彦6段がオリンピック以来20日ぶりの公式戦で復活。しかも2試合とも先鋒を引き受け、千葉大輔(日本道路公団B)には伝家の宝刀・左内股を見事に決めた。技がかかるたびにファンの歓声と拍手

が大きく人気の高さを物語った。しかし、この大会で実業団を退き、母校天理高の教員となる養父直人5段はラストフアイトを飾れず、無念の歯がみをこらえていた。

日本中央競馬会も、もったいない試合を落とした。総合警備に対し谷口が生田に、安藤が小嶋に2点をあげて中堅戦は引き分け、このあと副将大下、大将松本が井上、上水にそれぞれ一本負けしたため、②―2内容負けとなった。しかし松本は大内刈り技ありを奪い、そのままけき固め。有効



初優勝の総合警備保障Aチーム

タイムを経過し、あと5秒で技あり、合わせて一本となることを下から返されて逆転負けは泣き切れない。

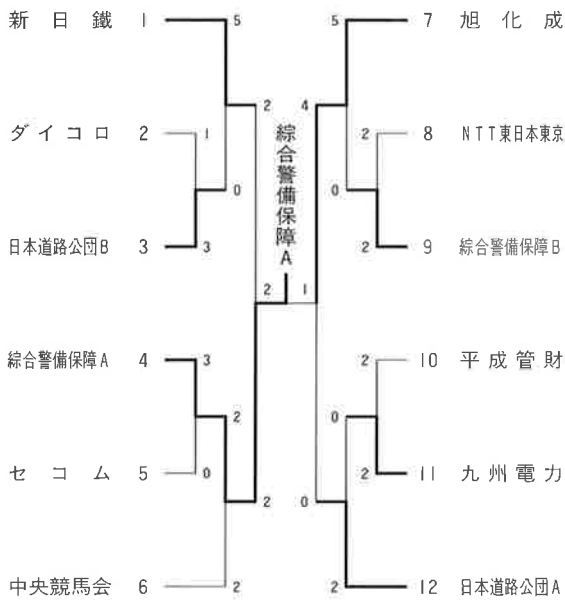
優勝監督コメント

総合警備保障A 河合宏和

井上が加入したが、それに頼らず皆一丸となり全力を出してくれた。もちろん「井上効果」は大きい。社内でも柔道の話題が盛り上がっている。でも正直言って自信はなく、一試合一試合ぎりぎりに上がって行った。決勝は普通では勝てないからオーダーも正攻法でなく、アレンジした。不調の副将と大将を前に移した。井上―村元は作戦通り。勝っても負けても後2人に任かす。井上加入で今まで夢だったのが現実。ルーキー生田には緊張せず、肩の力を抜いてやってくれと言った。

男子第一部成績表

優勝 総合警備保障 A
 準優勝 旭化成
 第3位 新日本製鐵
 第3位 日本道路公団 A



【準決勝】

第1試合

新日鐵 2-② 総合警備保障 A
 ○吉田秀彦 6段 優勢勝ち 小嶋新太 3段
 湊谷知幹 4段 —×— 生田秀和 3段
 養父直人 5段 背負投 有川光誠 4段○
 永井亮平 3段 優勢勝ち 井上康生 5段○
 ○高橋徳三 3段 優勢勝ち 近野貞治 3段

第2試合

旭化成 4-0 日本道路公団 A
 ○窪田茂 4段 反則勝ち 中嶋康博 4段
 斎藤制剛 3段 —×— 中村陽一 3段
 ○高橋宏明 4段 内股 浦田剛 4段
 ⊖下出善紀 5段 優勢勝ち 田村和也 4段
 ⊖村元辰寛 4段 優勢勝ち 小齋武志 3段

【決勝】

総合警備保障 A 2-1 旭化成
 上水研一朗 3段 内股 下出善紀 5段○
 有川光誠 4段 反則負け 窪田茂 4段
 井上康生 5段 —×— 村元辰寛 4段
 ○生田秀和 3段 内股 高橋宏明 4段
 ○小嶋新太 3段 内股 斎藤制剛 3段

平成12年度 年間最優秀選手

〔永野重雄杯〕 野村忠宏(ミキハウス)
 瀧本誠(日本中央競馬会)
 〔宮崎輝杯〕 田村亮子(トヨタ自動車)



〔特別功労賞〕 岩根史郎(大阪ガス 20回出場)
 〔功労賞〕 大森啓二(日立製作所 19回出場)

優 秀 選 手

女子	男子
第一部	第一部
山田真由美 (コマツ)	生田秀和 (総合警備保障 A)
一見理沙 (〃)	井上康生 (〃)
中尾春菜 (西日本警備保障)	下出善紀 (旭化成)
小出水幸子 (〃)	下出善紀 (〃)
第二部	第二部
志村哲也 (本田技研熊本)	小林広幸 (〃)
村田龍一 (〃)	野瀬英豪 (了徳寺学園)
第三部	第三部
藤村良太 (大京フーズ)	平田和義 (IMS)
茂木仙子 (住友海上)	阪田達也 (近畿通関)
山田千恵美 (タカメディカル A)	中濱真吾 (京葉ガス)
	高橋徳三 (新日鐵)
	村元辰寛 (旭化成)

男子第二部

スペインの欧州王者がいて 平成管財V2

決勝戦は、先鋒戦から両者気合十分の激しい攻防で、寝姿勢の時に新田の歯が宮本の左手に当たったとかで試合中断。しかし大事に至らず再開するも引き分け。次鋒戦は中村が身長183cm谷本に食い下がって大内刈りから連続の左送り足払い、これが決まって谷本横転、京葉ガス技ありの先取点。谷本も右内股で反撃するが、中村弾力性のある体さばきで切り抜ける。

問題は中堅戦で210kgのルアノ(スペイン)が150kg吉永を1分15秒赤畳から左払い腰でゴロリ有効。そのままけさ固め一本。ヘーシンクカルスカ(以上オランダ)の再来を思わせる巨漢で、2000年5月ヨーロッパ選手権大会のオープン優勝者の由。

副将戦は勝負どころ、天下分け目の決戦場だが、右左のけんか四つのため組み手争いに終始し、残り18秒両者警告のまま引き分け。大将戦は山岸がすくい投げに行くところ払い巻き込みで老練小林がとどめを刺した。

優勝監督コメント

平成管財 井上晃一

第一部が1回戦負けで、皆の気持ちが悪くなかった。だが決勝は団結してやれた。去年のチームから小林と谷本、新入は森川と宮本で、ルアノは身長2m、23歳。ヨーロッパで大きい相手とばかりやったので、今回は小さい相手にてこずっていた。決勝の相手は大きかったので「ノープロブレム。問題ない」と喜んでいた。こっちも安心して見ていた。去年オリンピック後、鳥海又五郎さん(元全日本柔道連盟事務局長)が役員で来られて外国人スカウトが強力になった。



第二部優勝の平成管財チーム



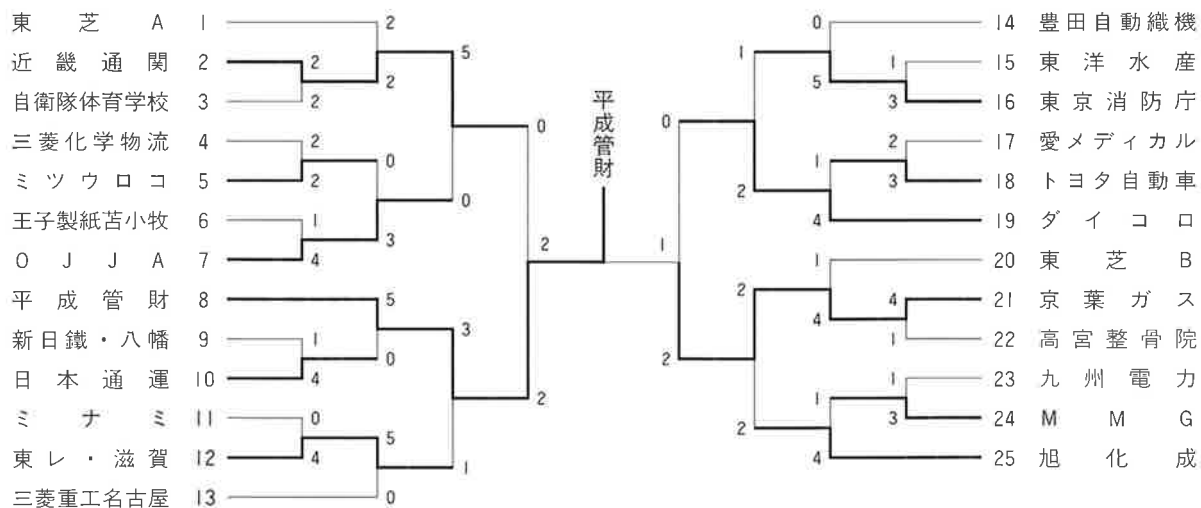
優勝に貢献した巨漢ルアノ

【決 勝】

平成管財	2-1	京葉ガス
宮本健治 4段	—×—	新田雅史 4段
谷本竜孝 3段	優勢勝ち	中村和裕 3段○
○ルアノ 4段	袈裟固	吉永喜史 3段
森川修次 3段	—×—	倉吉智宏 3段
○小林広幸 4段	払巻込	山岸裕二 5段

男子第二部成績表

優勝 平成管財 第3位 ダイコ口
準優勝 京葉ガス 第3位 近畿通関
以上の4チームは次年度第一部に昇格する



男子第三部

強化選手そろえた了徳寺学園が 初出場初優勝

初出場の了徳寺学園が、全日本クラスの強豪選手を揃えて出場してきた。世界選手権補欠の村田をはじめ本年5月の東アジア大会(大阪)66kg級優勝の鳥居、寝技の名手小室、4月の全日本選手権初出場の野瀬など粒よりのメンバー。無失点で5試合を勝ち抜き決勝に進出した。決勝では本田技研の執念に苦戦したが、堂々の初優勝を成し遂げた。

先鋒は残り12秒、鳥居やつと巴投げ効果。次鋒戦は小室が飛び十字を狙って果たせず、得意の寝技に持ち込めないまま平江に指導を奪われて、あげく大外刈り有効で逆転される。

中堅戦に入るや野瀬の大内刈り技あり、十字固めの速攻に富岡たまたま「まいった」を打って開始後10秒の一本。副将戦も村田の体落とし25秒、これであっけなく勝負が付いた。本田技研は大将志村が気迫あふれる試合ぶりで右小外の有効をうばい古豪チームの心意気を見せた。

優勝監督コメント

了徳寺学園 齋藤芳才

勝負は下駄を履くまでわからないと思いき、気を引き締めて戦った。全選手が全日本の合宿も含め十分に稽古をしており、のびのびと戦い、良い結果を出してくれた。私自身も良い経験させてもらった。



第三部優勝の了徳寺学園チーム

【準決勝】

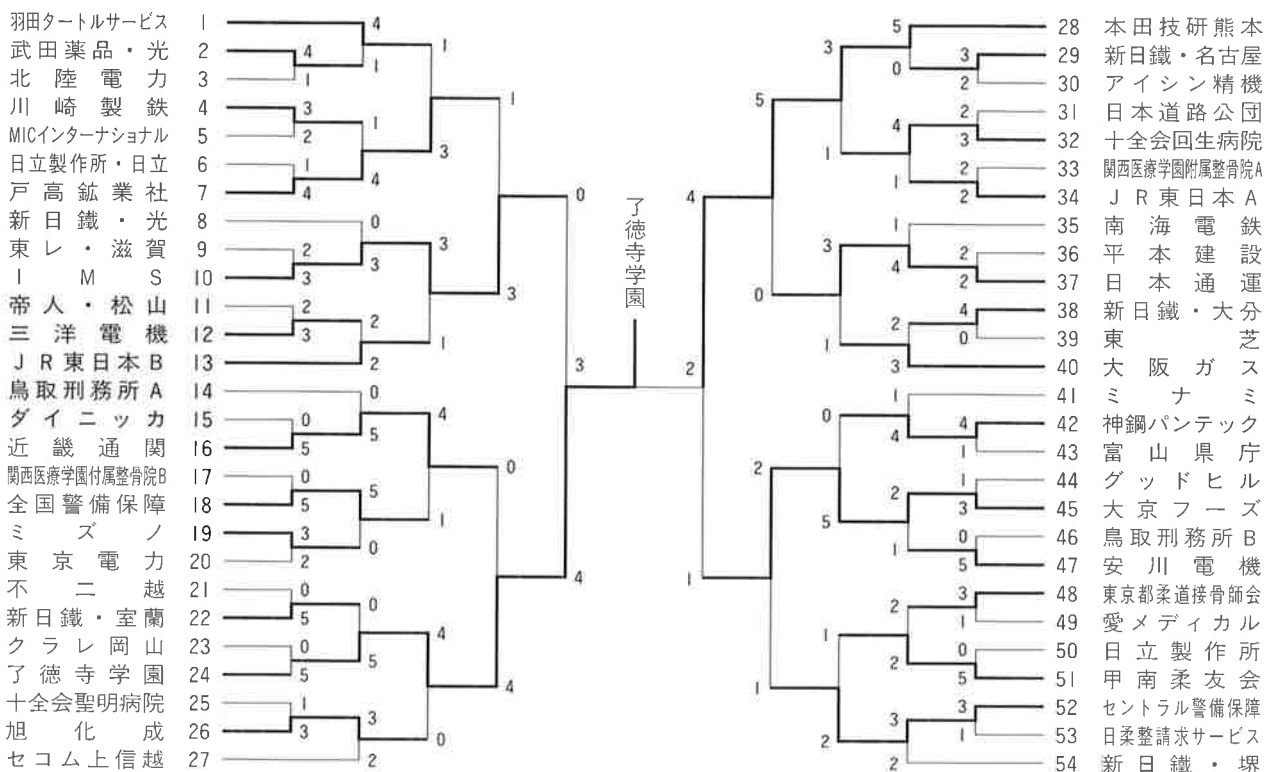
I M S 0-4 了徳寺学園
本田技研熊本 4-1 大京フーズ

【決勝】

了徳寺学園 3-2 本田技研熊本
○鳥居智男 5段 優勢勝ち 松尾圭二 2段
小室宏二 3段 優勢勝ち 平江 勝 2段○
○野瀬英豪 3段 腕挫十字固 富岡 良 3段
○村田龍一 2段 体落 山本和博 3段
岡本栄治 2段 優勢勝ち 志村哲也 3段○

男子第三部成績表

優勝 了徳寺学園 第3位 I M S
準優勝 本田技研熊本 第3位 大京フーズ
以上の4チームは次年度第二部に昇格する



女子第一部

コマツ完全優勝

前年の5チームから塩谷建設が抜けたのは富山国体が終わったせいだろうか。コマツは前年3勝1敗での優勝だった。最終戦でミキハウスに負け、勝敗数は並んだものの勝ち点の数で辛くも1位となった。それが今回は住友海上に許した1失点のみで3戦全勝した。リーグ戦ではあるが、事実上の決戦は対住友海上戦。

先鋒の窪田が茂木の右で釣り込み腰で技ありを取られた。しかし次鋒山田、中堅一見がたちまち2点をあげて追い抜いた。しかし、まだ戦いはこれからだ。住友の本と吉田が残っている。猛然と内股で一発を狙う木本、そこを天尾に返されて効果を取られる。あせりにすぎが生じたのかも知れない。残り1分48秒、木本はますます猛然と肉薄すれば天尾ほぼ掛け逃げの状況を展開。ようやく副審2人立って天尾消極指導のアピール。これが終了4秒前のこと。ぎりぎり引き分けの結果、ここでコマツの勝利が決定した。

コマツの攻撃力と守備力が作戦通りに成功した。住友海上は7月の世界選手権代表2人(横澤と上野)を大事をとって出場させず、加えて誤算はエース真壁の負傷による欠場が痛かった。98年のアジア大会63kg銀メダルの木本が、この大会を最後に引退を表明した。

コマツ対ミキハウス戦では天尾対南の勝負が好試合だった。先に天尾が効果を取ると南の左大外刈りが強襲して効果でタイ。

再び天尾が効果を取りながら、またも残り4秒で掛け逃げ指導を受けての引き分けだった。ミキハウス橋本圭史総監督によると「韓国体育大学院の曹が不調のため、日蔭暢年監督が急ぎよ南にスイッチした。南はドイツ遠征合宿から前日帰国したばかり。成田から飛んできた」由。ただし、これまで首位か2位から下がったことのないミキハウスの急降下は「伝統を傷つけるもの」と総監督の一言。

優勝監督コメント

コマツ 松岡義之

住友、ミキハウスともに力的には差はなかったが、昨年以上に良くまとまって全員で勝ちとった。長井新コーチがよく助けてくれた。新人の一見、松崎は今までになかったタイプの選手(明るく元気で、チーム全体のムードもかなり変わった)。特に一見が入社後調子を上げ、今日も良いところで活躍してくれた。次は世界を狙わせたい。



山田の内股見事に決まる



女子第一部優勝のコマツチーム

【優勝までの対戦成績】

第1試合

コマツ	対戦相手	結果	対戦相手
○山田真由美 2段	袈裟固め	海下澄枝 2段	ダイコロ
○窪田雅子 2段	—×—	南條和恵 3段	ダイコロ
○一見理沙 2段	優勢勝ち	小坂知巳 2段	ダイコロ
○天尾美貴 2段	優勢勝ち	柳田恭子 3段	ダイコロ
○松崎みずほ 2段	—×—	難波友美 2段	ダイコロ

第2試合

コマツ	対戦相手	結果	対戦相手
○窪田雅子 2段	優勢勝ち	茂木仙子 3段	住友海上
○山田真由美 2段	内股	渋谷美枝子 4段	住友海上
○一見理沙 2段	大外刈	貝山仁美 3段	住友海上
○天尾美貴 2段	—×—	木本奈美 3段	住友海上
○松崎みずほ 2段	—×—	吉田亜沙美 初段	住友海上

第3試合

コマツ	対戦相手	結果	対戦相手
○窪田雅子 2段	優勢勝ち	宮之原まゆみ 3段	ミキハウス
○山田真由美 2段	優勢勝ち	岡崎綾子 2段	ミキハウス
○天尾美貴 2段	—×—	南 千草 2段	ミキハウス
○一見理沙 2段	優勢勝ち	中市陽子 3段	ミキハウス
○松崎みずほ 2段	内股	木屋好絵 2段	ミキハウス

女子第一部成績表 <リーグ戦>

	住友海上	コマツ	ダイコロ	ミキハウス	勝 負 (1勝0負0分)	順 位
住友海上	△	△ 1	○ 3	○ 2	2勝1敗	2 位
コマツ	○ 2	△	○ 3	○ 4	3勝0敗	優 勝
ダイコロ	△ 1	△ 0	△	△ 1	0勝3敗	4 位
ミキハウス	△ 1	△ 0	○ 2	△	1勝2敗	3 位

女子第二部

西日本警備保障

三年目で初優勝

前年より1チーム少ない12チームが参加。前年優勝の肥後銀行が初戦で敗退する番狂わせ。日水製薬が不戦の星1つを拾ったあと、引き分け2で逃げ切り殊勲の星をあげた。肥後銀行は磯川、上野のポイントゲッターが寝技で固め切れず、これが敗因。決勝は互いに初進出同士のタカメディカルと西日本警備保障。先鋒戦はタカメディカルの横澤が攻めて相手指導を取る。中堅は左内股、足取りで再三飛び込むタカメディカル上村を身長で15cm上回る西日本警備保障中尾がつぶして防ぎ、残り1分13秒左払腰からの大内刈りで効果に結び付け、タイとする。大将決戦は山田が右払い巻きで攻めるが、体重で32kg軽い小出水が背後から足を取って食らいつく。このあと小出水は背負い投げで連続的に攻め、守勢の山田に指導が与えられ、すぐ終了のブザー。接戦を僅差で制した小出水、うれしさのあまりガッツポーズ。

優勝監督コメント

西日本警備保障 筑紫 仁

先輩後輩仲の良い、いいチームがくれた。大会出場3年目での優勝は非常にうれしい。

これで実績が出来たので、会社の理解を得て、もっともっと強化していきたい。



女子第二部優勝の西日本警備保障チーム

【準決勝】

日水製薬	1-2	タカメディカルA
西せつ子	2段	横澤沙恵
○三代聡美	2段	腕挫十字固
坂中基美	2段	崩上四方固
三代聡美	2段	合技
西日本警備保障	1-1	セコム
大塚こずえ	初段	赤野仁美
○中尾春菜	初段	反則勝ち
小出水幸子	2段	優勢勝ち
		福田美奈子
		3段○

【決勝】

タカメディカルA	1-2	西日本警備保障
○横澤沙恵	2段	優勢勝ち
上村陽子	2段	優勢勝ち
山田千恵美	初段	優勢勝ち
		伊藤聡子
		2段
		中尾春菜
		初段○
		小出水幸子
		2段○

女子第二部成績表

順位	優勝	西日本警備保障
1	肥後銀行	0
2	日水製薬	3
3	愛メディカル	0
4	タカメディカルA	3
5	セコム上信越	0
6	十全会回生病院	1
7	十全会聖明病院	0
8	MICインターナショナル	0
9	西日本警備保障	3
10	タカメディカルB	2
11	関西医療学園附属整骨院	1
12	セコム	2

「定時総会」開催される

第40回定時総会及び平成13年度理事会は、平成13年6月8日16時30分から鳥取県立武道館会議室で開催され、第1号議案から第7号議案について、満場一致で承認された。

- 第1号議案 平成12年度事業報告
- 第2号議案 平成12年度収入支出決算
- 第3号議案 平成13年1月～3月 事業報告
- 第4号議案 平成13年1月～3月 収入支出決算
- 第5号議案 平成13年度事業計画案
- 第6号議案 平成13年度収入支出予算案
- 第7号議案 平成13・14年度役員改選の件



背負い投げで攻める小出水

第51回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプション開催

6月9日(土)18時30分より米子国際ホテルにおいて、鳥取県立武道館開館記念を兼ねた第51回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプションが盛大に開催された。

当日は、(勲)全日本柔道連盟の嘉納会長や地元鳥取県の西原出納長、森田米子市長をはじめ、多数のご来賓の方々や、連盟役員、並びに地元関係者など総勢200余名の参加があり、武道館の開館のお祝いと大会の成功を期するにふさわしい盛り上がりを見せた。

レセプションは山口会長の挨拶に始まり、西原鳥取県出納長と森田米子市長の歓迎のご挨拶の後、永瀬米子市商工会議所会頭の乾杯の音頭で祝宴に入った。祝宴の中では、地元安来節保存会によるアトラクションなどがあり、和やかな雰囲気の中で山田鳥取県柔道連盟会長の発声による万歳三唱で.openapiとなった。



山田鳥取県柔道連盟会長



山口会長のあいさつ



山田鳥取県柔道連盟会長の音頭で万歳三唱

2001年世界柔道選手権大会代表選手 (当連盟在籍者)

男子100kg級



井上康生
(総合警備保障)

男子90kg級



飛塚雅俊
(新日本製鐵)

男子81kg級



中村兼三
(旭化成)

男子66kg級



中村行成
(旭化成)

女子70kg級



上野雅恵
(住友海上)

女子52kg級



横澤由貴
(住友海上)

女子48kg級



田村亮子
(トヨタ自動車)

発行日 2001年7月15日
 発行人 全日本実業柔道連盟
 発行協力 事務局長 郷田博史
 取材協力 ジャーナリスト 宮澤正幸
 印刷 ダイコロ株式会社